



MMWIN[®] みんなのみやぎネット[®]

より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために
Vol. 106

薬薬連携ツールのグループ展開について

宮城県病院薬剤師会作成の「薬薬連携ツール」は、宮城県内の多くの保険薬局で導入が進んでおります。MMWINに参加されている全23店舗にツールを導入されましたマリーン調剤薬局ゼネラルマネージャー 鈴木 健悟様に、医薬連携、薬薬連携に関するお考えについてお話を伺いました。

薬薬連携ツール導入のきっかけ

薬機法改正により、服薬後のフォローアップが求められる時代になりました。今後、さらにトレーシングレポートの必要性、重要性が増してくるのではと考え導入しました。また、病院、薬局双方にとって、できるだけ手間のかからない必要な事項のみ記載する形式なので、必要な情報をすぐに抽出できる点も大きいのではと考えます。



マリーン調剤薬局ゼネラルマネージャー
鈴木 健悟 様

ツールの活用方法

現在は、東北大学病院様へ入院予定の患者様を確認した薬局での情報を提供しております。

内容としては、併用薬情報、患者様の基礎情報、服薬状況による留意点（一包化、粉碎ほか）など様々となっております。また、過去に副作用事例がある場合は、その旨も提供するようにしております。薬の適正使用上、大変有用と考えており、服薬情報提供料3を算定しています。

日頃のMMWINの利活用

MMWIN導入の病院、診療所が多くなり、患者様より進んでカードを提示していただける機会が増えてきました。メリットで挙げますと、検査値を把握できますので、医師による処方意図が読み取りやすいことがございました。特に減量、増量の理由が検査値より把握できると、患者様への服薬指導、服薬管理がより適切になる実感がございます。また、検査値の経過も確認できるので、薬の効果を薬局でも確実に確認できるのは、服薬指導の幅も広がると考えます。

今後の展望について

現在、薬薬連携ツールは、東北大学病院様を中心に展開されていると思います。個人的に、今後他の多くの病院が共通ツールを利用することで、情報の簡素化、効率化に繋がるのではと考えます。また、そうすることで今以上に薬薬連携が進み、必要な質の高い情報共有がなされ、よりよい医療提供へ導ける可能性を感じております。

情報共有を通じて、薬局薬剤師は地域を支える医療人の一人として、よりきめ細かい対応ができればと思っております。

お問合せ先：

一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)

【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>

【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】office@mmwin.or.jp



『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。